

## Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning

畑, 佳孝

<https://hdl.handle.net/2324/6787460>

---

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	畑 佳孝
論文名	Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning
論文調査委員	主査 九州大学 教授 田尻 達郎 副査 九州大学 教授 石神 康生 副査 九州大学 教授 吉住 朋晴

## 論文審査の結果の要旨

高解像度内圧検査 (HRM) は食道運動異常症 (EMDs) 診断におけるゴールドスタンダードであるが、特殊な装置を必要とするため、より身近なスクリーニング検査の発展が望まれている。EMDsを診断するのに有用な、2つの新規所見を用いてバリウム食道造影検査 (BE) スクリーニングの有用性を評価した。2013年1月から2020年10月の間に、EMDsが疑われHRMとBEの両検査を受けた244症例を分析した。EMD診断はシカゴ分類3.0版を用いたHRM所見に基づいて行った。BEは硫酸バリウムを用いた連続食道造影撮影で行われた。3つの従来BE所見 (液面形成、数珠様・コークスクリュウ様所見、無蠕動・微弱蠕動) と2つの新規BE所見 (波様所見、接合部上バルーン) が診断のために用いられた。2つの新規所見と従来所見を用いてEMDsを診断するBEスクリーニングの感度と特異度はそれぞれ79.4%と88%であった [受信者動作特性曲線下面積 (AUC) = 0.837]。2つの新規所見がない場合は、感度と特異度はそれぞれ63.9%、96%であった (AUC = 0.800)。アカラシアは液面形成と高い相関を示し (88.7%)、absent contractilityは、無蠕動・微弱蠕動と高い相関を示した (85.7%)。遠位食道痙攣と数珠様・コークスクリュウ様所見との相関は60%、アカラシアと波様所見との相関は59.7%と比較的高かった。個々のBE所見の観察者内再現性、観察者間一致率はそれぞれ84.4%、75%であった。波様所見は積算弛緩圧 (IRP) が高く、遠位潜時が短いことと関連した。また、接合部上バルーンはIRP高値と関連していた。以上から2つの新規所見を追加することでBEスクリーニングは一般診療においてEMDs診断に有用な可能性が考えられた。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士 (医学) の学位に値すると認める。